

共立女子大学・短期大学図書館所蔵 和装本目録作成のために

岡田ひろみ 咲本英恵 内田保廣 菅野扶美

1. はじめに

共立女子大学図書館には様々な古典籍が所蔵されているが、その全容を知ることは難しい状況にある。現在ある目録は、『共立女子大学図書館所蔵和装本目録—第一—』（平成8年10月）のみで、4号館中央図書館貴重書室蔵本や、それ以後に購入された八王子図書館蔵本に関する整理はあまりされていないのが実情といえる。これまで貴重書扱いの古典籍は、教員が個々に研究・教育に利用することはあっても、部分的な利用にとどまり、全体を見据えた活用の仕方はほとんどされてこなかった。その原因のひとつに、どのような貴重書が所蔵されているのか、全貌を知りづらいという状況があったかと思われる。この大学にどのような和装本が所蔵されているのか、ということは蔵書検索の形では知り得ないからである。

そこで、日本の古典文学を研究する研究者四人による共同研究として、総合文化研究所研究助成を得て、『共立女子大学図書館所蔵和装本目録—第一—』収載書の確認と、目録に未掲載の和装本の調査を行った。調査はまだ終了しておらず、今回は途中報告という形になるが、まずは一覧として示すことが研究の一助となると考えここに紹介する次第である。

2. 『共立女子大学図書館所蔵和装本目録—第一—』補遺

既刊の目録は、「共立女子大学図書館所蔵和装本」とあるが、八王子図書館特別蔵書室に収められていたもの、かつ平成8年6月現在調査済みのものに限られている。当時図書館長だった浅野晃先生の序に「和装本の整理には、本学大学院文芸学研究科日本文学専攻の学生と、図書館職員とが協力して、業務に当たった。最初、版本の調査から手がけたので、写本類で今回の目録に入っているものはごくわずかである。また、この整理は、学生の書誌学的調査を主眼としていたものであるから、目録の記述は、やや詳しすぎる傾向となっている。」とあり、大学院生や図書館職員の方の調査・整理を元としている。日本文学専攻の大学院生にとって、和装本を実見し、調査するという作業で学び得たことは大きかったであろうし、教員・職員・学生が共同で行うという姿勢は今後も引き継ぎたいものである。

本目録の分類は、『国書総目録』（岩波書店）により、「心学・教訓・宗教（神道、仏教）・歴史（通史、物語）・国学・武家故実・伝記・花押・名鑑・系譜・法制・往来物・地誌風俗・物産・医学・建築・木工・料理・庭園・書道・武道・演劇（謡曲狂言、浄瑠璃、その他）・語学・辞典・和歌・歌学・軍記・説話・俳諧・読本・御伽草子・仮名草子・浮世草子・黄表紙・咄本・人情本・合巻・随筆・紀行・漢学・漢詩文・和刻本・注釈（祝詞、歴史、法制、和歌、物語、歌謡、随筆、日記、

謡曲、漢詩文)」に分けられている。記載項目は、「書名、写・刊本の区別、請求番号、体裁、残欠状況、保存状況、外題、内題、柱刻、編著者、序跋者、画者、紙数、画数、広告、蔵書印、刊記・奥書、付記」と詳しい。丁寧に書誌事項を確認し、作成された目録なのであるが、今回再調査した上での補遺を備忘録として以下記しておく。

P25

・我つゑ W157/12/1～3

刊記 文化八年辛未十二月求版→文化八年辛未冬十二月求版

P26

・目のあたり W157/26/1～2

刊記 二条通御幸町西江入→二条通御幸町西エ入

杉原通柳馬場東江入→杉原通柳馬場エ入

二条通高倉東江入→二条通高倉東エ入

P27

・今ばかり W157/14/1～2

※書名 教訓今ばかり 義堂シリーズ、「教訓」つけるか

刊記 二條通麴町東江入ル町→二條通麴町東エ入ル町

・民の反映 W157/16/1～5

体裁 紙 樺色無地→縹 (はなだ) 色無地 ※撫育草と表紙色同じ

P29

・撫育草 (そだてぐさ) W157/22/1～2

刊記 享和三檢亥春→享和三檢亥春

同三条麴屋町東入→同三條麴屋町東入

同三条高倉南側→同二条高倉南側

P30

・五用心慎草 157/23/1～2

体裁 鼠色無地→浅黄色無地

P34

・道二翁道話 W157/9/1～6

刊記 大坂心齋橋南壹丁目→大阪心齋橋南壹丁目

P35

・実語教 W159/61

保存状態 不良→並

P38

・和字功過自治録 W151/55

刊記 安永五年丙申發行→安永五年二月丙申發行
三條通新町東→二三條通新町東 浅野弥兵衛→浅野彌兵衛

P39

・忠孝道の芝折 W159/57/1～3

刊記 京三條橋通麩屋町西→京三條橋通麩屋町西
同三條橋通富小路西入→同三條橋通富小路西入

P40

・元々集 W171/8/1～8

刊記 なし→承應二年癸巳仲春吉日

P42

・大祓詞後釈 W176/15/1～2

刊記 京都二條通柳馬場東江入ル町→京都二條通柳馬場東エ入ル町
同三條通寺町江入ル町→同三條通寺町エ入ル町
同寺町佛光寺下ル町→同寺町通佛光寺下ル町

P43

・靈の宿替 W171/9

序跋者 山下清風→山下御風

奥書 なし→真前の屋の主

・中臣祓本義 W176/18/1-1～2

体裁 紙 茶色無地→縹雷紋(色落ち)

P44

・中臣祓本義 W176/18/2-1～2

体裁 紙 浅黄色無地→浅黄色唐押紋

・神代評撰記 W210.3/78/1～5

刊記 なし→天保三年壬辰季冬良日 山城國伏見本教寺 英智院日宣

・稻荷神社考 W175/18/1～2

刊記 書林 同日本橋通四丁目→同日本橋通壹丁目

P53

・類聚国史異 W210.3/73/1～27→W210.3/73/1～3

P55

・史徴 W201.3/74/1～24

体裁 紙 薄茶色無地→胡桃色無地

刊記 鈴之屋蔵版 寛政十二年庚申之春發行 勢州松阪日野町 柏屋兵助(後略)→刊記なし

P62

・古史徴 W171/16/2-1～7 　・古史徴開題記 W171/16/1-1～6

覚書『目録—第一』に「『神代系図』は巻一の付録なので次の古史徴開題記と合わせるべきところであるが、請求番号の関係上、右のような処理にした」とあるように、同一書物を別の請求番号としている。『古史徴』としてまとめ、請求番号を作成し直す必要があろう。

P67

・近世奇人伝 W281/334/1～5

体裁 紙 浅黄色無地→青色布目

P72

・雲上明鑑 W281/376/1824-1～2→W281/377/1824-1～2

P73

・雲上明鑑 W281/376/1856-1～2→W281/377/1856-1～2

・雲上明鑑 W281/376/1862-1～2→W281/377/1862-1～2

P80

・風俗通義 W042/3/1～2

体裁 紙 納戸色無地→縹色無地

P118

・順徳院御集 W911.14/58

体裁 紙 琥珀色無地→茶色無地

外題 紫禁和歌草→紫禁和歌草全

刊記 寛文六丙午年正月中野太郎左衛門板行→寛文六丙午年正月日中野太郎左衛門板行

状態も良い物も多く、日本山海名産図絵（P83以下目録掲載箇所のページ数）、辺曾佐久里（P111）、安積沼（P140）、蜃人少女玉取草紙（P144）、都鄙物語、名月清譚（P145）、尤之双紙（P148）狂文棒歌撰（P151）、初音草嘶大鑑（P152）、靄籬遠山日記（P153）、徒然草文段抄（P183）、徒然草絵抄（P184）などは展示向きとの声もあがった。装幀については、同じ色目を別の呼び方で記載していることもあったので、今後ある程度統一する必要がある。

3. 目録未掲載の八王子図書館和装本一覧

現在本学図書館所蔵の貴重書は、4号館貴重書室及び、八王子図書館貴重書室に所蔵されている。以下に掲出するのは、2020年9月時点で八王子図書館貴重書室に所蔵されていた、目録未掲載の和装本一覧である。書名、請求記号、写本・刊本の別、奥書・跋（刊記、書写者など）を簡単に記した。書名は「和漢三才図会」（W031/46/1～81）のようにあげたが、「本朝年代紀 帝王」（W201/370/1）「本朝年代記 武将」（W201/370/2）「本朝年代紀 卷之一」（W201/370/3）のようなものは、同じ書名ではあるが、ひとまず別に立項している。

目録未掲載和書リスト

タイトル	請求記号	写/刊	奥書、跋（刊記、本屋、書写者など）
虞初新志 卷一～十	W025/38	刊	文政六年 植邑藤右衛門他
群書一覽	W025/43/1～6	刊	須原屋茂兵衛他
群書一覽 一～六	W025/43/1-1～6	刊	享和二年 浪華書林 加賀屋善藏他
和漢三才図会	W031/46/1～81	刊	岡田三郎右衛門他
江戸大節用海内蔵 乾坤	W031/53/1～2	刊	文久三年 須原屋茂兵衛他
増補頭書訓蒙圖彙大成 一～十	W031/76/1～10	刊	寛政元年 皇都書林 九臯堂
拾芥抄 上中下	W031/77/1-1～3-2	刊	寛永十九年 西村氏吉兵衛（刊記五冊目の終わりにあり）
萬宝鄙事記	W031/79/1～8	刊	宝永二年 茨城多左衛門
訓蒙図語彙大成一～十	W031/85/1～10	刊	寛政元年 須磨勘兵衛
鶴林玉露 天集 地集 人集	W042/4/1～3	写	寛文二年 中市市右衛門
群書類従 卷四百八十	W081/68	刊	刊記なし
周礼考工記図解一～四	W122/21	刊	寛政八年 須原屋茂兵衛他
大学	W123/27	刊	文化九年
大学原解 上中下	W123/28/1～3	刊	太田錦城 多稼軒 蔵版
論語集解義疏	W123/44/1～5	刊	京都書林 遠藤兵左衛門
有像列仙全傳	W124/14/1～4	刊	慶安三年 藤田庄右衛門
かねもうかの伝授 上下	W157/17/1～2	刊	脇坂義堂
説教心のかなめ	W157/32	刊	明治七年
見聞 独歩考	W157/34	刊	刊記なし
千歳昔物語	W159/54	刊	宝暦四年 菊屋喜兵衛
救荒俚談 神道の極意	W171/11	刊	明治三年跋
豊受皇大神御鎮座本記鈔	W171/14	写	享保五年
天説辨辨 上下	W171/18/1～2	写	
三五本国考	W171/19	写	板本写
神道美知斯流邊	W171/5	写	
倭姫命世記	W171/6/1	写	神道五部書之内 群書類従写か？
御鎮座本記	W171/6/2	写	神道五部書之内 群書類従写か？
宝基本紀	W171/6/3	写	神道五部書之内 群書類従写か？
天照坐伊勢二所皇大神宮御鎮座次第記	W171/6/4	写	神道五部書之内 群書類従写か？
伊勢二所皇大神宮御鎮座本記	W171/6/5	写	神道五部書之内 群書類従写か？
倭姫命世記	W171/7	写	
新鬼神論 上下	W172/5/1～2	写	文化十三年 和田正
本朝神社考 一～六	W175/11/1～6	刊	上村次郎右衛門
二十二社次第記	W175/12	写	文政五年 浪華書房
宮比神御伝記	W175/14	刊	文政十二年
大神宮儀式帳 内宮外宮	W175/15/1～2	写	正徳三年 中村氏衆永
儀式	W176/10/1～5	刊	天保五年 出雲寺文治郎他
儀式	W176/11/1～5	写	
大祓太詔刀考	W176/17	写	弘化二年 富田庸秋
中臣祓聞書	W176/20	写	
神教綱領	W178/11	刊	明治六年 加藤長平
説教道話	W178/12	刊	明治六年
元亨釋書 一～十	W180/94/1～10	刊	元禄三年 京一条通鏡石町 津屋勘兵衛
龍頭旧事紀 一～十	W210.3/65/1～10	刊	勢陽山田籐原長兵衛重常 元禄七年六月十一日 洛陽四條前川茂右衛門春草
龍頭旧事紀 一～五	W210.3/65/1～5	刊	刊記なし
日本後紀	W210.3/67/1～20	写	享保六年 伊庭太郎
古語拾遺解	W210.3/76	写	寛政三年 佐分清宏
古語拾遺示蒙節解 一～四	W210.3/77/1～4	刊	刊記なし
吾妻鑑脱漏	W210.4/50	刊	弘化四年

タイトル	請求記号	写/刊	奥書、跋（刊記、本屋、書写者など）
石山軍鑑	W210.4/52/1-12	写	
石山軍鑑	W210.4/52/2-11	写	
柳営秘鑑	W210.5/100/1~5	写	
天正間記	W210.5/65/1~14	写	
伊達忠臣実録	W210.5/74/1~3	写	天保十四年
播州赤穂忠臣記	W210.5/75	写	天明四年 森田四郎兵衛
難波戦記	W210.5/76/1~5	写	
慶安太平記	W210.5/77/1~10	写	明治十五年
寛永日記	W210.5/88	写	
太政官日誌	W210.6/86/1~90	刊	御用書物所 村上勘兵衛他
京都府下人民告諭大意	W210.6/87	刊	明治元年
鎮将府日誌 第一~第五	W210.6/88/1	刊	御用書物所 村上勘兵衛他
鎮将府日誌 第六~第八	W210.6/88/2	刊	御用書物所 村上勘兵衛他
江城日誌 前編 第一~第十五	W210.6/89	刊	御用書物所 村上勘兵衛他
京都府布令書 第一~第六	W210.6/90	刊	御用書物所 村上勘兵衛他
国史年表	W210/368	刊	文政三年 東都書肆 前川六左衛門
本朝年代紀 帝王	W210/370/1	刊	
本朝年代紀 武将	W210/370/2	刊	
本朝年代紀 卷之一	W210/370/3	刊	
本朝年代紀 卷之二	W210/370/4	刊	
本朝年代紀 卷之三	W210/370/5	刊	
本朝年代紀 卷之四	W210/370/6	刊	
本朝年代紀 卷之五	W210/370/7	刊	
本朝年代紀 卷之六上	W210/370/8	刊	
本朝年代紀 卷之六下	W210/370/9	刊	
本朝年代紀 卷之七	W210/370/10	刊	時貞享元甲子年八月上澣刊行（跋）洛城京極二條上町 大森太右衛門他
読史余論	W210/372/1~9	写	
古史通	W210/373/1~5	写	
続紀歴朝詔詞解	W210/374/1~6	刊	享和三年 須受能屋蔵板 永楽屋東四郎
公事根源集釋 上中下	W210/376/1~3	刊	元禄七年 松下見林 村上勘兵衛書肆
夏草 全	W210/377/	写	伊勢貞丈
春草 上下	W210/377/1~2	写	伊勢貞丈
小笠原諸礼大全 下巻	W210/381	刊	刊記なし
古実集 壺~四	W210/384/1~8	写	寛延元年 伊藤甚右衛門他
古実抜糸	W210/385/1~6	写	
古実抜要口伝書	W210/386/1~2	写	
翠簾之書	W210/387	写	
簾草由来	W210/388	写	
原林雜抄	W210/389	写	天明四年
萬請取渡之書	W210/390/1~2	写	水島卜也他
官位相当図	W210/391	写	羽倉藤之進
御老中饗応式	W210/392	写	
四季法令	W210/393	写	安永九年 菅沼伊平治
根元諸物記	W210/395	写	安永九年 伊藤幸氏他
年始例記傳記	W210/396	写	
年賀之式	W210/397	写	天明元年 伊藤幸氏他
年中礼式	W210/398	写	安永七年 水島卜也他
女中書礼	W210/400	写	
木具寸法伝記	W210/401	写	
官物帳	W210/402	写	安永九年
躰要巻	W210/403	写	天明四年
当流頭礼集	W210/404	写	安永八年

タイトル	請求記号	写/刊	奥書、跋（刊記、本屋、書写者など）
當流頭礼集附紙別伝	W210/405	写	
婚礼秘書 結納部 上 里出之部 中 合盃之部 下	W210/406/1~3	写	
婚礼和書	W210/407	写	安永八年 伊藤幸氏他
婚礼真式 床飾 献立 給仕	W210/408	写	
婚礼水祝之式	W210/409	写	
古今婚礼御語録	W210/410	写	伊藤幸氏他
進納礼拔書口伝書 一	W210/411	写	
推暎言語集	W210/412	写	
推暎記 乾坤	W210/413/1~2	写	貞享四年
女中装束伝	W210/414	写	天明元年
化粧眉作口伝	W210/415	写	
銚子伝記	W210/416	写	
倍膳門口授追考	W210/417	写	天明二年
天児之巻	W210/418	写	
宮参之次第	W210/419	写	安永九年
懐妊着帯傳記	W210/420	写	
産所臺目蘊奥傳	W210/422	写	天明四年 瀬山重甫他
子のご餅秘伝抄	W210/424	写	源氏三之一
古今元服口伝蘊奥伝	W210/426	写	
元服齒黒伝	W210/427	写	天明元年
古今元服口伝	W210/428	写	
葬礼口訣	W210/430	写	
要篋弁誌	W210/436/1~3	写	
古事記傳追継考附録 全	W210/94	刊	安政六年 永楽屋東四郎
書札礼伝追考 乾	W210/399	写	楠田長高
書札礼伝追考 坤	W210/399/2	写	楠田長高
皇胤紹運録 統録続々録	W281/372	写	
平安人物志 全	W281/375/1822	刊	文政五年 京都書林 尚書堂
天保改刻 平安人物志 全	W281/375/1838	刊	天保九年 尚書堂 竹簡堂
嘉永改刻 平安人物志 全	W281/375/1852	刊	嘉永五年 皇都書林 堺屋仁兵衛他
藩翰譜	W281/380/1~20	写	
藩翰譜続編	W281/381/1~20	写	
本朝武家大系図 上下	W281/382/1~2	刊	刊記なし
本朝孝子傳 上中下	W281/383/1~3	刊	貞享三年
前賢故実	W281/384/1-1~10-2	刊	刊記なし 菊池武保序・画
燈前夜話 上下	W282/18/1~2		寛永十二年乙亥
堂上歴代正統圖	W288/373	写	享保十五年 源義真（花押）
府郷御江戸地図	W291/390	刊	蔦屋吉藏 嘉永 一枚
御定書	W322/40	写	嘉永三年 菅沼澹
貨幣取調書	W337/30	刊	慶応四年 御用御所物所 村上勘兵衛他
料理献立集	W383.8/30	刊	貞享三年 菊屋七郎兵衛
絵本大人遊	W384/37/1~3	刊	俵屋太郎吉
諺草	W388/83/1~7	刊	元禄十四年 上島瀬平他
海国兵談 壺	W399/5/1	写	安政二年 仁田常種
海国兵談 二~四	W399/5/2	写	安政二年 仁田常種
海国兵談 五~八	W399/5/3	写	安政二年 仁田常種
海国兵談 九~十	W399/5/4	写	安政二年 仁田常種
海国兵談 十一~十二	W399/5/5	写	安政二年 仁田常種
海国兵談 十三~十四	W399/5/6	写	安政二年 仁田常種
海国兵談 十五	W399/5/7	写	安政二年 仁田常種
海国兵談 十六	W399/5/8	写	安政二年 仁田常種
徹幽市先生口授潔齋傳	W399/6	写	天保十一年 菅沼澹

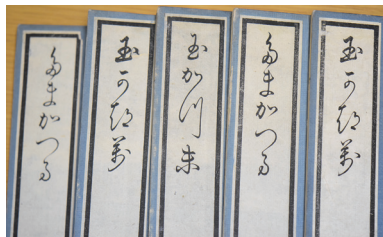
タイトル	請求記号	写/刊	奥書、跋（刊記、本屋、書写者など）
修羅前七芝居	W399/7	写	嘉永二年 菅沼澹
拾迷問答 武真論後篇	W399/8	写	嘉永三年 菅沼澹
武者言葉大概 完	W399/9	写	嘉永三年 朝倉景實他
天経或問	W440/55/1~4	刊	寛政六年
天経或問註解圖卷 上下	W440/56/1~2	刊	刊記なし
日曜曆談	W449/3	刊	寛延二年 永楽屋東四郎
産科母子草 上中下	W495/23/1~3	刊	寛政十一年 須原茂兵衛他
虎列刺豫防論解 完	W498.6/2	刊	明治十三年 内務省社寺局
廣大和本草	W499.9/1/1~12	刊	宝暦九年 直海龍
秘伝花鑑一~六	W499/160/1-1~6	刊	安永二年
本草綱目	W499/8	刊	刊記なし 唐本か？
調菜録 全	W596.1/60	写	明治十七年 千葉長吉注照
萬寶全書	W708/115/1~13	刊	明治七年 藤井利八
男立出入湊	W721/113	刊	刊記なし
寒葉齋画譜 一~五	W721/222/1~5	刊	明和庚寅秋九月 建琳思明較訂
景年花蝶画譜 春の部	W721/259/1	刊	明治二十五年 西村稔兵衛門
景年花蝶画譜 夏の部	W721/259/2	刊	明治二十五年 西村稔兵衛門
景年花蝶画譜 秋の部	W721/259/3	刊	明治二十五年 西村稔兵衛門
景年花蝶画譜 冬の部	W721/259/4	刊	明治二十五年 西村稔兵衛門
ものがたり源氏五十四帖 第一~第五	W721/267/1~5	刊	昭和十年 内田美術書肆
画図醉芙蓉	W721/64	刊	文化六年 須原屋
集古名公画式	W722/34/1~5	刊	菱屋孫兵衛
款識百例	W728/11	刊	刊記なし
成親王咸陽碑	W728/23		拓本 尚古山房
銭泳隸書千字文	W728/30		拓本 刊記なし
謡訓蒙圖會 初編 一~十	W768/28/1~10	刊	享和二年 額田正三郎他
箏築譜	W768/56	写	
箏築雅楽譜 乾坤	W768/57/1~2	写	
竜笛譜	W768/58	写	
竜笛雅楽譜 乾坤	W768/59/1~2	写	
笙雅楽譜	W768/60	写	
絵入狂言記 一~六	W773/10/1~6	刊	嘉永元年 鶯頭辰三郎他
玉淵集	W773/153/1~5	刊	享保十二年 今村義福藏板
聲色早合点	W774/270	刊	天保二年 五柳亭徳升
花江都歌舞伎年代記	W774/51	刊	文化十二年 塩屋長兵衛他
蹴鞠大意記	W783/29	写	寛保元年 楠田長高
乗馬口伝	W789/10/1~2	写	延宝九年 鳥飼覚兵衛
茶湯初心集	W791/52	写	安永八年
香道	W792/2	写	延享二年
十炷香記録之次第	W792/3	写	天明元年 楠田長高
中華若木詩抄 上中下	W810.24/15/1~3	刊	寛永十年 豊雪齋道伴
錦繡段抄	W810.24/16/1~5	刊	寛永二十年 野田弥兵衛刊
磨光韻鏡 上下	W811/103/1~2	刊	延享元年 山本長兵衛
漢呉音図 上	W811/108/1	刊	刊記なし
漢呉音徴 中	W811/108/2	刊	刊記なし
漢呉音図説 下	W811/108/3	刊	刊記なし
倭玉篇 上下	W813.2/2/1~2	刊	慶長十八年
邇言便蒙抄 一~五	W813.3/10/1~5	刊	天和二年 武田治右衛門
合類大節用	W813/207/1~10	刊	享保二年 村上勘兵衛他
日本積名 上中下	W813/227/1~3	刊	元禄十三年 上嶋瀬平他
詞重波	W813/229/1~10	写	天保十三年
新刊倭玉篇	W813/234	刊	慶安五年 書林 余氏

タイトル	請求記号	写/刊	奥書、跋（刊記、本屋、書写者など）
和名類聚抄 一～五	W813/235/1～5	刊	書林 渋川清右衛門
増補下学集 一～五	W813/260/1～5	刊	寛文九年 長尾平兵衛
真草倭玉篇 一～五	W813/265/1～5	刊	寛永二十年 林甚右衛門
てにをはしつのをたまき	W815/123	刊	刊記なし
和歌枕詞補注	W816/19/1～2	刊	安政三年 須原屋茂兵衛他
改正増補蠻語箋	W833/23/1～2	刊	安政四年 江都書林 山城屋佐兵衛他
俳仙集	W911.3/38	刊	寛政十一年 野田治兵衛他
詠歌大概抄	W911.1/182	写	文政九年 仲田知栄
作者部類	W911.1/69/1～7	写	
伊呂波類聚和歌注	W911.1/70/1～4	写	
賀茂翁遺草 一～六	W911.1/71/1～6	写	
長歌言葉玉衣	W911.1/72/1～3	写	
東野州問書	W911.1/74/2-1	刊	刊記なし
名所便覧 天地人	W911.1/75/1～3	写	
詠歌大概抄	W911.1/76	刊	刊記なし
紀記歌集	W911.11/3/1～2	刊	寛政十年 上総屋利兵衛
日本紀竟宴歌	W911.11/4	写	文化四年 西岡銀也
槻の落葉続日本後記歌考	W911.11/6/1-1	刊	
槻の落葉	W911.11/6/1-2	刊	文政二年 荒木田久老
厚顔鈔 上中下	W911.11/7/1～3	刊	宝暦三年 中山甫山
校異万葉集	W911.12/117/1～5	刊	文化二年再刊 出雲寺文治郎
万葉集玉の小琴	W911.12/121/1～4	写	文化十三年
万葉類語抄	W911.12/124/1～20	写	文化十一年
古今和歌集 上下	W911.13/56	刊	天和三年 丸屋源兵衛板
新古今和歌集	W911.13/61/1～4	刊	正保の板との注記有
古今和歌六帖	W911.13/62/1-1～6-2 (全9冊)	刊	寛文九年 吉田四郎右衛門板
散木奇歌集	W911.13/64/1～6	写	嘉永二年 山田常典識語
六家集拾遺 上中下	W911.13/79	刊	
八代集	W911.135/3/1～16	刊	正保四年
三家類題抄	W911.14/56	刊	文政元年 森広主
慈昭院殿御自歌合堯孝法印筆歌合	W911.14/60	写	慶応二年
六家集	W911.148/2/1～18	刊	宝永七年
百人一首古鏡	W911.15/10	写	文久元年 鈴木光重
一字御抄	W911.15/11/1～8	刊	元禄三年 田方屋伊右衛門板
秋二百十番歌合 上下	W911.15/8/1～2	刊	弘化三年 国井秀実
其粉陶器交易 そのいろとりと うきのかふえき 上中下	W912.6/65/1～3	刊	明治五年 佐橋富三郎作 白水広信画
日本書紀類聚解	W913.2/47/1～10	写	文政二年天山
日本書紀 卷三	W913.2/48	写	
鼈頭古事記 上中下	W913.2/50/1-1～3	刊	元禄七年 前川茂右衛門板
鼈頭古事記 上中下	W913.2/50/2-1～3	刊	刊記なし
日本書紀磐余彦天皇卷鬘帖抄	W913.2/57/1～5	写	
伊勢物語 上中下	W913.3/297/1～3	刊	貞享二年 絵師吉田定吉
源氏小鏡（絵入）	W913.3/300/1～3	刊	明暦三年 安田十兵衛板
源氏物語提要	W913.3/301/1～20	写	
池の藻屑	W913.4/138/1～7	写	
風来六々部集前編	W913.5/119/1-1～2	刊	後編目録つき
風来六々部集後編	W913.5/119/2-1～2	刊	刊記なし
下学集 全	W913/242	刊	元和三年
玉かつま	W914.5/21/1～15	刊	尾張名古屋本町七丁目 永楽屋東四郎 江戸 日本橋通本白銀丁 同出店 文化七年

タイトル	請求記号	写/刊	奥書、跋（刊記、本屋、書写者など）
蒹葭堂雑録 乾坤	W914.5/24/1~2	刊	刊記剥落
式亭三馬自記	W915.5/1	写	慶応二年抄
山むろ日記	W915.5/14	刊	棕園蔵版
賀茂翁家集	W918.5/24/1~5	刊	享和元年十月廿日 橘千蔭
天保三十六家絶句 3卷/三上恒九如編：卷上卷中卷下	W919.5/24/1	刊	天保九年 大文字屋得五郎他
天保三十六家絶句/三上恒九如編：卷上卷中卷下	W919.5/24/2	刊	
天保三十六家絶句/三上恒九如編：卷上卷中卷下	W919.5/24/3	刊	
金元清詩類選天	W921/199/1	刊	安政三年 須原屋茂兵衛他
金元清詩類選地	W921/199/2	刊	
金元清詩類選人	W921/199/3	刊	
草堂詩余 楽・書・数・射・禮・御	W921/81/1~6	刊	刊記なし
長歌歌傳	W923/25	刊	貞享元年 小佐治半右衛門
長恨歌 琵琶行 野馬台	W923/25/2	刊	寛永二十年 風月宗知
長恨歌 野馬台	W923/25/3	刊	慶安元年 西村又左衛門
長恨歌（琵琶行 野馬台）	W923/25/4	刊	古活字

上記一覧には、「物語源氏五十四帖第一～第五」（W721/267/1～5）のような本来貴重書と装本に入れなくてよいものもあげている。この本は与謝野源氏の挿絵だけを集めたもので大変美しく状態も良い。その他備忘録的に明治・大正期の和装本も一部掲載している。

一覧を作成するにあたり、今後積極的に展示・公開すべきであろう作品をいくつも確認することができた。例えば、本居宣長の『玉かつま』（W915.5/21/1～15）表紙は、題箋を比較するだけで文字遣いの変化が楽しめ、学生にくずし字を教える際の教材の一つにすることも可能であるし（写真①）、明治初期の狂言作者である佐橋富三郎の『其粉色陶器交易』（W912.2/65/1～3）は、サミュエル・スマイルズの「セルフ・ヘルプ」を中村正直が訳した「西国立志編」の翻訳劇で、最初の散切物であり、絵入根本の最終出版といわれており、白水広信画の本作品は、国立国会図書館所蔵本と遜色ない美品である（写真②～⑤）。



写真① 『玉かつま』 題箋



写真② 『其粉色陶器交易・上』 表紙



写真③ 『其粉色陶器交易・上』 一丁オ



写真④ 『其粉色陶器交易・上』 一丁ウ・二丁オ (絵)



写真⑤ 『其粉色陶器交易・上』 四丁ウ

4. おわりに

一覧から目録未掲載の和装本は、八王子図書館のものだけでも270冊以上あることがわかる。目録掲載の本は「277」であったが、目録が作成されてから20年以上の月日がたち、そろそろ『和装本目録—第二—』を作成する時期に来ているといえよう。そもそも、最初の目録につけられた「第一」という番号に、第二以降も目録が編まれるようとの意志が読み取れる。我々はそれを引き継がなければならないし、今後引き継ぐべき学生を育てる責務もある。